

# 社会を支える見えない力

桜川中学校 9 年

星 琉之哉

小学校の頃、私は買い物をするときにかかる消費税を見て「なぜ余分にお金を払わなければならないのか」と疑問に思っていた。周囲の大人達も税金に対して不満を口にしていることが多く、税金はただの負担で、自分達の生活を苦しめるものだと考えていた。税金について深く知る機会はほとんどなく、面倒で損をしているという感覚だけが残っていた。

しかし、中学校の授業で税金の役割について学んだとき、私の考えは大きく変わった。税金は災害復旧、医療、教育、福祉、インフラ整備など、社会のあらゆる基盤を支えるための資金であり、私達の生活を守るために欠かせないものであることを知った。

その授業をきっかけに、習い事の帰り道を思い出した。あの頃、ほとんど街灯のない暗い道を一人で歩いていた私は、足音や物音におびえ、胸が締めつけられるような不安を感じながら、必死に家を目指して走っていた。もしあの道に明るい街灯があったなら、どれほど安心して歩けただろうか。今その道の街灯は税金により設置・維持されている。私のような暗闇が苦手な人もきっといるだろう。そこで税が役立っていると思うと趣深い。

しかし、税金は万能の解決策ではない。日本は少子高齢化や環境破壊、地域間の経済格差など、複雑で深刻な問題を抱えている。税金の使われ方が適切でなければ、社会の不公平は拡大し、将来への不安は更に増すだろう。

また、税金には時に無駄遣いや不透明な使われ方もあり、それが国民の税に対する不信感を生んでいることも事実だ。税金が公平かつ効率的に使われる仕組みを作ることは、私達一人ひとりの責任でもあると感じている。

私はこれらの課題を乗り越えるため、税金の使い道に積極的にに関わり、社会に貢献したいと考えている。例えば、環境保護に税金を充て、再生可能なエネルギーの普及や自然保全を促進することは、地球の未来を守るために不可欠だ。また、教育の機会均等を実現し地域や経済的背景による格差を縮小することも急務である。これにより、すべての子ども達が平等に夢や可能性を追いかけられる社会をつくりたい。

さらに私は地域活動などに参加し、税金の使い道を広めることで社会に貢献したい。そして、将来は政策に関わる仕事に就き、納税者としてだけでなく、税金の使い方を考え、提案できる人間になりたい。

また、若い世代が税を正しく理解し関心を持つことは、持続可能な社会づくりに欠かせない。学校教育だけでなくインターネットなども使い税が未来を創る力であることを広めたい。税は負担ではなく社会を支える重要な資源だということを。

私は税と社会のつながりを学び続け、自分の意見を持って社会に発信し、よりよい未来に貢献したい。かつての否定的な考えは誤解だった。そして税への考え方を変えたい。